第2部　よりよい社会の形成と参画

第1章　私たちの生活と法

4 自由に生きる権利（自由権）

教科書　pp.62〜63

内容整理　空欄にあてはまる語句を書き込もう。

自由権とは

・一人ひとりの異なる生き方や考え方が大切にされるという ❶ 個 人 の 尊 重 を土台に，だれもが自分らしく生きることができるよう，日本国憲法では ❷ 基 本 的 人 権 の中心に ❸ 自 由 権 を位置づけている。

・憲法は，私たちの生活が国家権力により不当に侵害されない権利として，

以下の三つを保障している。

　❹ 人 身の自由（生命の自由，身体の自由ともいう）

　❺ 精 神の自由

　❻ 経 済 活 動の自由

人身（生命・身体）の自由

・❼ 人 身 （生命・身体）の自由は，すべての自由権の基礎となる権利であり，憲法上の権利を享受するための前提となる権利でもある。憲法では，以下の権利を定めている。

　奴隷的拘束及び ❽ 苦 役からの自由（第18 条）…国家権力によって人格を無視した取りあつかいを受けない。

　❾ 法 廷 手 続 き の保障（第31 条）…法律で定められた適正な手続きによらなければ刑罰を科されない。

　❿ 罪 刑 法 定 主義…刑罰を科す場合には刑罰をあらかじめ法律で定めておかなければならない。

　⓫ 黙 秘 権（第38 条）や ⓬ 弁 護 人 を依頼する権利…刑事事件の被疑者・被告人に保障される。

　⓭ 令 状 主義…裁判所の発行する ⓭ なしの逮捕・捜索・押収・自白の強要や拷問，残虐な刑罰を科すことを禁じる。ただし，⓮ 現 行 犯 の場合は，⓭ なしでの逮捕が認められている。

⓯ 再 審 制度…罪を犯していないにもかかわらず罪にとわれる ⓰ 冤 罪事件を防ぐ。

精神の自由

・自分の生き方を選択するとともに，民主主義を維持・発展させるために不可欠な権利である ⓱ 精 神 の自由は，大日本帝国憲法下では大きな制約があった。過去の歴史の反省にたち，憲法では以下の権利を保障している。

　⓲ 思 想 及び良心の自由（第19 条）

　⓳ 信 教 の自由（第20 条）…国家の政治が宗教と結びつくことを禁じた

⓴ 政 教 分 離 の原則が明記されている。

⓴ 表 現 の自由（第21 条）…政治参加において不可欠である，内心の思想や情報を周囲や社会に表明できる権利。

　集 会 ・結社・言論・ 出 版 の自由， 学 問 の自由，検閲の禁止，通信の秘密など

・ただし，表現の自由の行使が個人の基本的人権を侵害する場合は，「 公 共 の 福 祉 」によって制限される。

経済活動の自由

・ 経 済 活 動 の自由は，資本主義経済にのっとり，不当な制約や制限を受けることなく自由に経済活動を営むための

権利であり，憲法では以下の権利を保障している。

　財 産 権 （第29 条）

　居 住 ・移転・ 職 業 選 択 の自由（第22 条）

・ただし，自由な経済活動により社会全体の利益をそこなう場合には，「公 共 の 福 祉 に反しない限り」という制約を受ける。

作　業　空欄にあてはまる語句を書き込もう。（教科書p.62の表3を見て書き込もう）



1. 免田　②　財田川　③　松山　④　島田

調べてみよう　次の語句の意味を，教科書等を参考にしながら説明しよう。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ① | 政教分離の原則 | 国家が特定の宗教を禁止，強制，保護することを禁じる原則。 |
| ② | 公共の福祉 | 人権どうしの矛盾や衝突を調整する原理。他人の人権との関係で，人権がもともと受けることになっている制限のこと。 |

考えてみよう　多数決の原理，少数者の意見の尊重などの観点から，「表現の自由」が必要な理由を考えてみよう。

［　例］民主政治にとって不可欠である討論の自由を保障することになるから。　　　　　　　　　］

★解説　苦役

肉体的・精神的な苦痛を受ける強制的な労働。

★解説　冤罪

罪を犯していないのに罪に問われること。ただし，判決確定後，判決に重大な欠陥があった場合に開かれる再審で，

逆転無罪になる例もある。※編注：冤は旧字。

★公共の福祉

人権どうしの矛盾や衝突を調整する原理で，他人の人権との関係で，人権がもともと受けることになっている制限の

こと。